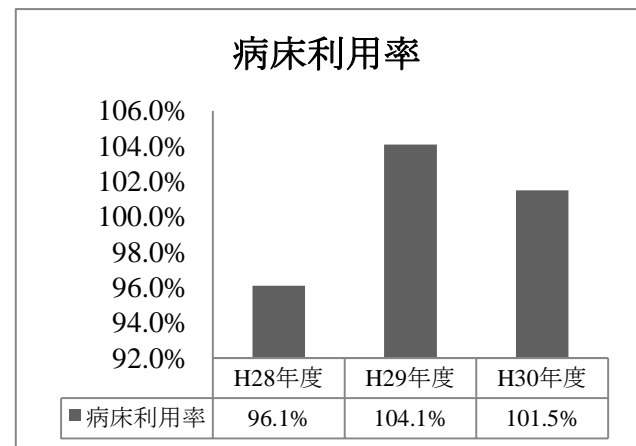
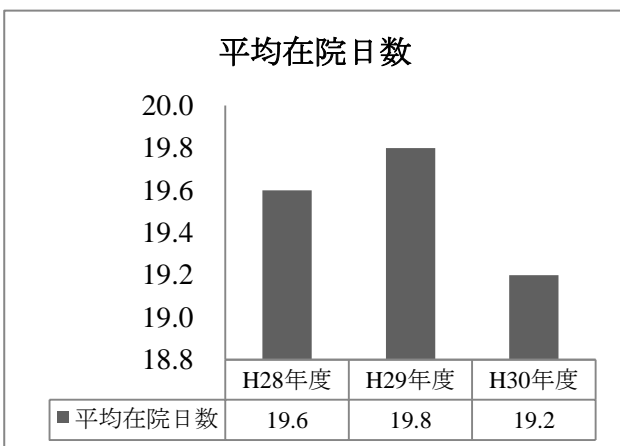
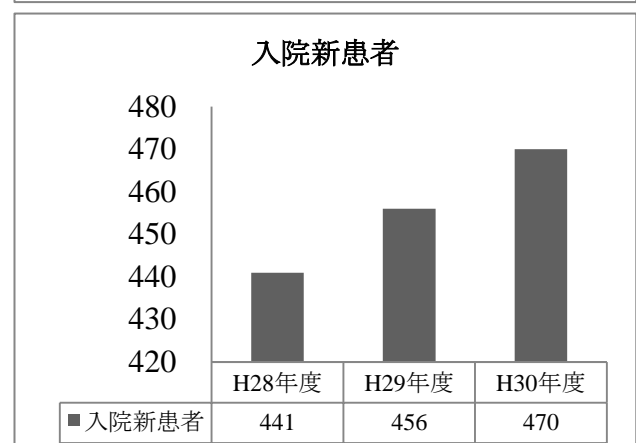
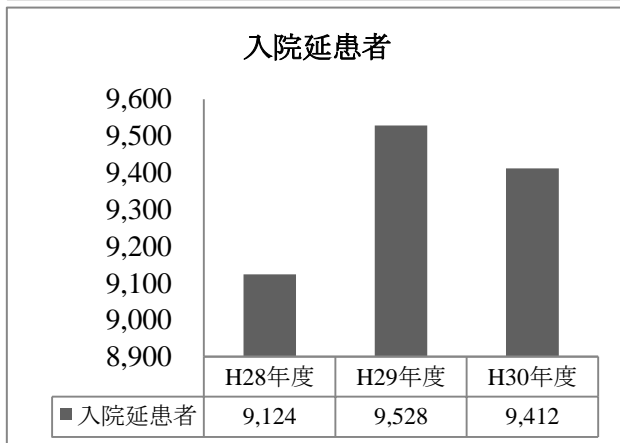
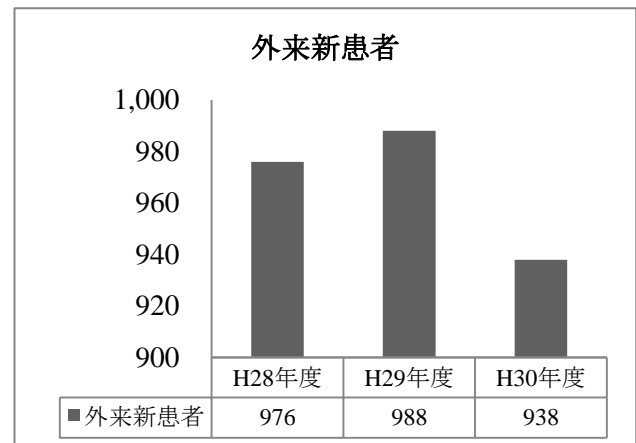
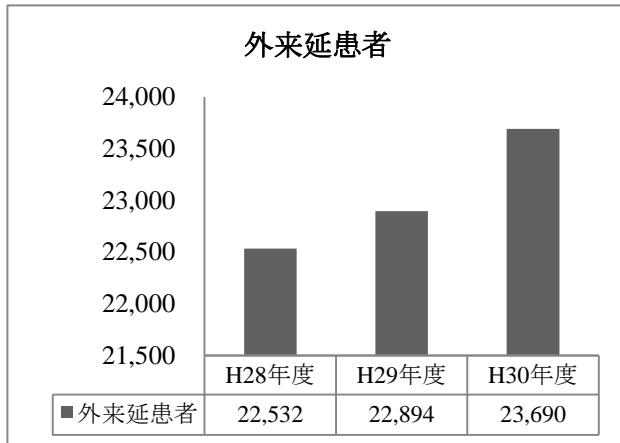


2-12 脳神経内科

診療実績



研究・教育活動

【研究】

1. パーキンソン病等 Movement disorders の病態および治療に関する研究：

大熊は関東パーキンソン病勉強会の主要メンバーとして、数々の共同研究に参加してきました。パーキンソン病の姿勢異常の研究では自治医大ステーションクリニック藤本先生が論文投稿目前まで来ています。また新しい共同研究として、東京女子医大飯嶋先生を中心に嗅覚障害とレム睡眠行動異常(RBD)を中心に調べており、昨年症例登録が終了しました。解析結果が楽しみです。

重度嗅覚障害をとまなうパーキンソン病患者において、ドネペジルが認知症発症を予防できるかどうかを前向きに調べる DASH-PD 試験も無事終了しました(厚生労働科学研究費補助金[現 AMED 臨床研究・治験推進研究事業]；平成 24 年～28 年度[分担研究者])。イベント発生率が少ない関係で1年間延長になりましたが、当院では全国で4番目に多い12例をエントリーしてフォローしています(大熊、野田)。さらにドネペジルの歩行に対する効果を客観的にみるために、患者さんの携帯歩行計記録を行っています(大熊)。

大熊はオランダの Prof. Bas Bloem と共同で、日内変動とすくみ足を有するパーキンソン病における転倒の前方視的調査を行いました。また携帯歩行計を用いてパーキンソン病や関連疾患の歩行解析を行っています。パーキンソン病患者さんの家庭での転倒とすくみ足を客観的に評価する試みを継続しています。

野田は不随意運動を呈する例をこれまでに多数英文で症例報告しました。今後も診療と並行して、症例報告を継続しようと考えております。

2. 脳血管障害に関する研究：

脳血管障害グループの先生からの依頼で、心房細動の実態把握と予後調査のための患者登録研究(RAFFINE)に参画し、17例登録を行い無事終了となる見通しです。

3. 神経免疫学的研究：

多発性硬化症に対して使用できるようになった種々の Disease modifying therapy(DMT)を試みて症例を蓄積しています。本郷から毎週伊豆長岡に来ている横山先生にコンサルテーションする例も増えています。

【研究業績，活動等】

日本神経学会関東地方会へ年4回欠かさず報告しております。